

令和6年度 北九州市立木屋瀬小学校経営方針

創立151年の歴史と令和の新しい学校

北九州市の教育 5つの柱

～「こどもまんなか」で、質の高い教育環境の充実を～

- ① 全てのこどもにとって「居心地の良い学校」をつくる
- ② 失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくる
- ③ 誰一人取り残さない学びと、先端的な学びを進める
- ④ 学校の自律性と教職員のウェルビーイングを高める
- ⑤ 地域とのつながりの中で、こどもを守り、支え育てる

学校経営の基盤

- (1) 全体の奉仕者としての自覚と責任感、使命感をもつ。
- (2) 「チーム木屋瀬」として、全職員で子どもを育てる。
- (3) 時代の要請に応える、新しい学校教育を創造する。
- (4) 人権意識をもち豊かな心をもつ子どもを育成する。
- (5) 地域や保護者とともに子どもが安全・安心にすごせる環境をつくる。

「育む、つくる、高める」

【令和6年度ビジョン】 困難に立ち向かい、自ら考えを伝え合うことで、
進んで行動できる子どもの育成

令和6年度テーマ **つなげる・広げる**

⑥⑥ **考え、伝え合う(自己認識)**

⑤ **行動する(自己創出)**

✳️ **そして、広げる(自己肯定)**

「木屋瀬フロダクト」：つくりだすプラン+学びのユニバーサルデザイン

アイデアに価値はない。それを実行できてはじめて価値になる

Google 共同創業者リー・バード

「そろえる力・チーム木屋瀬」

木屋瀬小学校 ミッション

自ら考え 心豊かで たくましい子どもの育成

校区の特性

- 古くより長崎街道の追分宿場町として栄えた文化がある。
- 住宅地が更に増えていながら、豊かな自然に囲まれている。そばに遠賀川、笹尾川、黒川が流れ、校内に昆虫や野鳥が姿を見せる。
- 熱意をもって指導すれば気持ち伝わる、温かく見守る地域。

子ども・保護者・地域・教師の願い

- (子) 分かってほしい・できるようになりたい。
- (子) ほめられたい、認めてもらいたい。
- (保) 毎日、喜んで学校に行ってほしい。
- (保) 友達と仲よく・元気に明るく過ごしてほしい。
- (地) 挨拶ができ、一生懸命働く子になってほしい。
- (地) 地域を愛し、地域を大切に子どもに育ててほしい。
- (教) 自分の良さを知り、自信をもって未来を歩んでほしい。
- (教) 学ぶ楽しさや働く喜びを知り、自己研鑽に励んでほしい。

「わかった・できた・もっと」

◆ 豊かな心

○ 見えない学力

- ・ 「人を大切にする力」「自分の考えをもつ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」を「見える学力」と同様に育てる

○ 立ち止まって、笑顔のあいさつ

- ・ 「おかめ」のあいさつ(大きな声で、体を起こして、目を見て)
- ・ いつ・どこで・どのように(いつでも・廊下や外で・立ち止まって)
- ・ 教師も保護者や来校者、お世話になった方に(送るときは玄関で)

○ そうじ→感謝で指導する

- ・ 掃除の意味と仕方を教える。(掃き方・拭き方・順序・割当て方)
- ・ 奉仕に対して、認められる場、感謝される場を設ける

○ 特別な教科道徳の授業

- ・ 道徳教育の要として「考え議論する道徳」の授業を

◆ 一人一人のニーズに応える特別支援教育

○ 全ての子どもにとって「居心地の良い学校」に

- ・ 教育的ニーズに応じた指導、交流及び共同学習の充実
- ・ 全ての子どもが安心してすごせる学校づくり(⑤とも連動)

○ 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内相談体制

- ・ ケース会議、保護者面談、個別の教育支援計画・指導計画
- ・ 交流及び共同学習の充実

○ 特別支援教室(校内通級)の充実

- ・ チャレンジルームの活用、デイズ教科書の活用

○ 全ての子どもに自己肯定感を高める

- ・ 自分の価値を感じる時間は、なくてはならない時間。
⇒ 伝え合うことから、認め合うことへ。
自己肯定感の向上からインクルーシブへ

◆ 確かな人権感覚

○ いじめを生まない好ましい人間関係づくり・学級づくり

- ・ 対人スキルアップ(子どもつながりプログラム・SEL-8s)をベースに、仲間を育てる「言葉の力」
- ・ SNS、ソーシャルネットの危険性、事案への早期対応

○ 木屋瀬小学校みんなのルールの「なぜ」を徹底

- ・ 全て子どもといっしょに木屋瀬ルールを確認する
- ・ ポイントを徹底する→名札、帰宅時間、持ち物等(認めて育てる)

○ 保・幼、中との連携

- ・ 木屋瀬中学校区保幼小中一環連携教育の推進(「木屋瀬中学校区授業5則」の意味)
- ・ 人権教育の推進(南同連で一体となって)

◆ 指導力の向上

○ 本気で学級目標を目指す

- ・ 授業や行事の中で、学級目標をどう具現化していくのか、小さな目標を立て、それに向かう姿を価値づける。

○ 子どもが主役となる場づくりを行う

- ・ 子どもが生活の場を自ら創り出せるよう、自分で考え、行動する場面を工夫する。

○ 子どもと目線を合わせる

- ・ 一人一人の子どもに「うん・うん」と共感。その子の背景に寄り添う。
- ・ 子どもを一人前の人格者として求め、接すること。

○ 「分かる授業」を提供するファシリテーターになる

- ・ 学習規律の確立と専科指導・持ち合い授業の充実
- ・ 研修体制:ピアコーチング(旧メンタリング)、若年研修(こやのセカフェ)

○ 自己研鑽、学び続ける教師になる

- ・ 良い授業、新しい施策等をサークルや委員会、文科などから積極的に取り入れる。

◆ 安心安全な学校づくり (危機管理)

○ 子どもの健康・安全のために共通理解と各所とのつながり

① 管理職、教職員とつながる

- ・ 報告、連絡、相談の徹底(知らないことは対応できない)、時系列での記録の作成、児童情報の共有、学校適応部会の活用
- ・ 網紀厳正; 交通事故、飲酒運転、公金取扱、個人情報、セクハラ・ハラスメント
- ・ トラブル発生⇒正確な事実確認・チームで対応・一つ上の手厚い対応

② 保護者とつながる

- ・ 欠席1日目は電話連絡、2日目は家庭訪問で、状況確認。親の悩みに寄り添う
- ・ 怪我、トラブル、持物紛失は当日の事実掌握・連絡(連絡帳は×)

③ 地域とつながる

- ・ ボランティア(パトロール隊)と子どもを感謝でつなぐ
- ・ ふるさととつながる⇒木屋瀬宿場町の歴史と伝統文化の継承

④ 学校外とつながる

- ・ 電話、外来者対応⇒明るく元気に(電話対応18時まで)
- ・ 学校だけで解決できないことは、外部の施設、組織を活用し連携を図る

◆ 時代の変化に応じた働き方(業務改善)

○ 共に成長できる明るい職場と教師の働き方改革

→ウェルビーイング(ポジティブ感情・没頭・他者との関係性・意味、意義・達成)

- ・ 持ち合い授業・学校行事のプロジェクト化で、見通し・準備の先取り

- ・ 部会・学年会、校支援回覧板の活用で、計画的な業務遂行

- ・ 時間外月45時間・年360時間以内、年休12日以上、土・日報告

- ・ 学年定時退校○曜日、主任が帰る努力を

◆ 確かな学力

○ 豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となる

- ・ 人生を楽しむために学ぶ(良い選択をする⇒個別最適な学び)
- ・ 社会の変化を乗り越えるため知識と経験、見通す力、決定する力、実行する力が必要

① 知識と経験

- ・ 絶対に必要な知識・技能を身に付けることができるように

② 見通す力

- ・ こうしたらこうなると、知識や経験をもとに複数の予測を立てられるように。

③ 決定する力

- ・ どの選択にもリスクはある。裏付けのある自信がもてるように。

④ 実行する力

- ・ 実行してこそ価値がある。失敗を恐れず実行できるように

○ 授業で力をつける(不易と流行の融合)

・ 「わかる授業づくり」5つのポイント

- 1 「学び合いの基礎」共感的な人間関係・学習規律など
- 2 板書には必ず「めあて」「まとめ」と「振り返り」
- 3 子どもの思考を深める「発問」の工夫
- 4 1単位時間の中に「話し合う活動」と「書く」活動
- 5 「まとめ」と「振り返り」終わりの5分の確保

・ユニバーサルデザインの授業づくり、ICTを生かした学習指導等

◆ SDGsの視点を踏まえた教育

○ コグトレをベースに(仲間を育てる言葉の力)

- ・ どうぞ、ありがとう、すごい、やるね、大丈夫?を増やす。

○ 防災・減災の取組

- ・ 学習参観を活用した水害防災学習、親子下校
- ・ ゼンリン協力の地図アプリ「マナップ」の活用

○ 故郷・木屋瀬を学習課題にした各教科・総合的な学習の時間

- ・ 木屋瀬街道、遠賀川の環境とゲストティーチャーの活用

○ 食育の推進

- ・ フッ化物塗布推進による虫歯予防 手洗い習慣化、

◆ ポストコロナの新しい学校

○ 「つくりだすプラン」の確立

- ・ 深い学びには仲間の力が必要→集団で効率よく学ぶ
- ・ プロジェクトチームによるPDCA

○ 上級生が作る学校

- ・ 先輩から何を学ぶのか、後輩に何を学ばせるのか(きょうだい学年等)
- ・ 誰かのために役立っている自分を誇りに→感謝のメッセージ